

第 65 期



# 中間事業報告書

平成 17 年 4 月 1 日から平成 17 年 9 月 30 日まで





ドラマ「電車男」

### 〈表紙説明〉

ドラマ「電車男」をイメージして、電車とラフ君、フジテレビ本社ビルなどをアスキーアートで描きました。

アスキーアートとは、パソコン上で記号や文字を組み合わせて作成した絵のことです。インターネットの掲示板から生まれ、書籍・映画・ドラマで一大ブームとなった「電車男」の中でも、主人公を励ますメッセージに効果的に使用されています。アスキーアートは、ネット文化で育った新しい表現方法として注目を集めています。

## Contents

第65期 中間事業報告書

- |  |  |
|--|--|
| 2 Top Message<br>ごあいさつ                             | 13 Non-Consolidated Financial Statements<br>単独財務諸表〈中間〉   |
| 3 Top Interview<br>トップが語るフジテレビ                     | 15 Corporate Information<br>会社情報/フジテレビグループ会社・フジネットワーク28局 |
| 7 Fuji TV Outline<br>アウトライン                        | 16 Corporate Data<br>会社の概況                               |
| 10 Special Report<br>ドラマ「電車男」の魅力について               | 17 Investor Information<br>株式情報                          |
| 11 Consolidated Financial Statements<br>連結財務諸表〈中間〉 | 18 Shareholder Related Information<br>株主メモ               |

# Top Message

ごあいさつ



代表取締役会長 (Chairman & CEO)

日枝 久

代表取締役社長 (President & COO)

村上 光一

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は格別のご高配にあずかり、心から御礼申し上げます。

当中間期の広告市況は、前年のアテネ五輪商戦の反動もあり、伸び率の鈍化が見られましたが、当社の放送収入は回復基調の景況感に支えられ、前年同期を上回る好成績となりました。前年度四冠王を獲得した視聴率は、おかげさまで当中間期に入ってから好調で、四冠を維持しております。

地上デジタル放送の視聴可能世帯は、今年末には関東地区で約1,500万世帯、カバーエリアは90%以上に到達いたします。全国の系列局も着々と準備を進めており、デジタル放送時代の本格化は目前に迫っています。通信のブロードバンド化に伴う、放送とインターネットの連携も急速に進展しており、豊かで使いやすいマルチメディア環境が具現化しつつあります。

このような状況の中、当社は今年のスローガンである「GO FOR NO.1 次の一手」を常に考え、様々な施策を打ち出しております。

まず、当社は、今年4月18日の(株)ライブドアへの資本参加および同社との業務提携についての基本合意を経て、今年9月1日に(株)ニッポン放送を完全子会社化するとともに、当社を事業持株会社とするフジサンケイグループの再編作業を進めております。かねてよりフジサンケイグループは、メディアミックスによる各事業の相乗

効果をビジネス拡充に活かしてまいりました。この再編を通じて、現在最強のメディアである「放送」を核としたグループ体制を明確にして、経営資源の選択と集中を機動的に実行し、これまで以上に競争力のある企業集団として発展していく所存です。

また、当社単体の組織につきましても、株主の皆様への積極的な情報開示、高い公共性を有する企業として社会的責任を果たすための法令遵守、激変するビジネス環境への即応性の確保、デジタルコンテンツの有効活用などをはかった機構改革を実施いたしました。

さらに、今年3月に着工した「臨海副都心スタジオ」(仮称)の建設も順調に進み、新しいステージに踏み出した当グループを象徴するランドマークとしての全容を徐々にあらわしつつあります。

当社は今後とも株主の皆様のご期待に沿うべく、全役員、社員一丸となって、当社のDNAである明るさと活気を失わずに、コンテンツビジネスの第一人者を目指して努力を続けてまいり所存でございます。

ここに、平成17年度上期の事業概要をご報告いたします。引き続き、株主の皆様への心からお願い申し上げます。

平成17年12月

# Top Interview

## トップが語るフジテレビ



代表取締役社長 村上光一

### 今回のグループ再編の目的を教えてください。

放送業界を取り巻く環境変化は、デジタル化の進展に伴い急激に加速しています。この時代の変化に対応するために、グループが一丸となって、テレビ、ラジオ、新聞、出版、映画、音楽、イベント、インターネット、モバイル、流通といったそれぞれの分野を有機的、効率的に活用する体制を整えていかなければなりません。そこでグループの資本構造と事業分野の見直しを行い21世紀の我が国を代表するメディアグループになるための基盤作りを行うことが再編の主たる目的です。

### グループ再編の中でのフジテレビの位置付けと役割を教えてください。

今年9月1日に金銭交付による株式交換を行い、ニッポン放送が当社の完全子会社になりました。今般、当社とニッポン放送の間で、ニッポン放送のラジオ放送事業その他すべての事業に関する営業を会社分割の手法により新会社に承継させること、およびフジサンケイグループ各社の株式を保有する会社分割

後の(株)ニッポン放送を当社に吸収合併させることについて合意しました。これにより当社は、資本構造上においてフジサンケイグループの事業持株会社の位置付けを確立しました。今後、当社はグループの中核企業としての役割を果たし、グループ各社のパワーと創造性を最大限に発揮できる体制を構築していきます。次代へ向けてメディア・コンテンツ産業のリーディングカンパニーの地位を磐石なものにするために鋭意邁進していくつもりです。

### フジテレビの当中間期の状況はどうでしたか？

おかげさまでこの中間期においても前年同期に引き続き視聴率、売上高ともに好調に推移しNO.1の地位を確保しました。視聴者からの強いご支持をいただき、ゴールデン（19時～22時）、プライム（19時～23時）、全日（6時～24時）、ノンプライム（6時～19時、23時～24時）の4つの時間帯で、いずれもNO.1の視聴率を獲得し「四冠王」となりました。前年度中間期がノンプライムを除く「三冠王」でしたので、当中間期はこれをさらに上回る好成績を収めることができました。連続ドラマでは4月期に放送した木村拓哉主演「エンジ

ン」が平均視聴率22.5%、7月期では「電車男」が社会現象になるほどのブームを巻き起こし平均視聴率21.2%とこの夏最高の成績を収めました。バラエティも好調で、4月にスタートした新番組「ネプリーグ」(月曜19時)が、週初めのゴールデンタイムのトップバッターとして大成功だったのをはじめ、他のレギュラー番組も高視聴率を安定的に獲得し、「四冠王」に貢献しました。また朝の情報番組も好調で、「とくダネ!」が連続56ヶ月首位を続け、「めざましテレビ」も念願の首位の座を獲得いたしました。報道番組も「FNNスーパーニュース」が主戦場の夕方の時間帯で首位を走り続け好調に推移しました。このように、どのジャンルにおいても高い視聴率が維持されたことを背景に、売上高は1,926億円の新記録を達成することができました。中間純利益は、番組制作費および販売管理費の増加により、前年同期比23.6%の減益で90億円となりました。

地上波テレビ局を取り巻く環境が激変する中、当社は健全な娯楽や正確な情報をお届けするためのコンテンツ制作に心血を注いでまいりました。おかげさまでフジテレビ本社ビルおよびその周辺で開催した夏休みイベントの「お台場冒険王2005」には日本全国から464万人もの来場者があり大盛況のまま会期を終えました。これも放送を通して多くの視聴者から信頼を得て、また親しみを感じていただいた結果だと思います。

### 当中間期の業績を詳しく教えてください。

広告市況は、前年のアテネ五輪商戦による活況の反動もあり、全体的には伸び率が低下傾向にありました。その中で当社の売上はネットタイムが前年同期をわずかに下回ったものの、ローカルタイム、スポットとも前年同期を上回る好成績を収めることができました。ネットタイムでは、「女子バレーボールワールドグランプリ2005」や「世界柔道2005」などのスポーツ大型単発番組が貢献しましたが前年実績に一步及ばず売上675億円、前年同期比0.4%減でした。ローカルタイムはナイター中継の放送本数減を

レギュラー番組でカバーし売上110億円、前年同期比1.8%増でした。スポットは、好調な視聴率を背景に売上702億円、前年同期比2.6%増となり、7月を除く各月で月次新記録を達成することができました。最終的に当中間期の放送収入は1,489億円、前年同期比1.2%増となりました。

その他事業は、イベントで「アレグリア2」が90万人を超える観客動員を果たし、権利ビジネスではイベントや番組関連商品の売上が好調に推移しました。ビデオ事業では「ドラゴンボールGT」DVDボックスのヒットがありましたが前年同期実績に届かず、映画事業も上期最大のヒット作「交渉人 真下正義」をはじめ「電車男」「星になった少年」など公開作が続々と好成績を収め売上に寄与しましたが、わずかに前年同期実績に及びませんでした。結果として、その他事業収入は287億円、前年同期比0.1%減となりました。

連結売上高は、ニッポン放送の完全子会社化に伴い連結子会社が増えたことやスポット収入が伸びたことなどで2,948億円、25.0%の増収となりました。営業利益は放送事業における費用の増加を新規連結子会社による利益増が補い246億円、11.2%の増益、経常利益は249億円、7.1%の増益となりました。また中間純利益は前年同期に貸倒引当金繰入額などの特別損失を計上した影響もあり127億円、24.6%の増益となりました。

なお、当中間期より連結子会社となった(株)ニッポン放送の実績は、売上高151億円、営業利益5億円、(株)ポニーキャニオンは売上高291億円、営業利益17億円でした。

### 下期の見通しはいかがですか？

引き続き視聴率トップの座を揺るぎないものとする体制をとっていくことは言うまでもありませんが、下期の広告市況の動きは鈍くなっております。景気そのものは上昇傾向にあると言われており、テレビ広告主の業績も決して悪いわけではありません。しかしながら好業績でも利益を留保する傾向が見られ

# Top Inter View

## トップが語るフジテレビ

広告宣伝費の増加につながらない事例が見られます。また中期的には継続する原油高の影響にも注意しなければなりません。「冬季五輪」等の国際的なイベントにより広告市況が刺激され回復基調に転じることを期待しています。

### 地上波放送のデジタル化の進捗状況は いかがですか？

地上デジタル放送は、今年12月からの出力増強に伴い視聴可能エリアが大幅に広がり、関東圏の約9割の世帯に電波が届くこととなります。全国的にも既に放送の始まっている3大都市圏に加え、今後急速な勢いで地上波のデジタル化が進んでいきます。

また来春から、地上デジタル放送の大きな魅力のひとつである「ワンセグ」と呼ばれる携帯電話やカーナビなど移動体向けへの放送サービスがスタートします。外出先でも地上デジタル放送を携帯電話などで視聴することが可能となる上に、データ放送によってニュース・天気予報や番組関連の情報を得ることができるようになります。地上デジタル放送の視聴可能エリアの拡大に加え、ワンセグのサービス開始により『いつでも、どこでも地上波テレビ』が実現します。これにより従来の家庭内視聴の形態を超えた新たな地上放送マーケットが創造されることを期待しています。

### 将来へ向けた「次の一手」の具体例を いくつか教えてください。

視聴率トップの座を走り続けるフジテレビの勢いが、今までにない「次の一手」となる新しい企画を具現化させるための活発なエネルギーになっています。そして、これら「次の一手」が新規事業を育て、視聴率向上にフィードバックすることを期待しています。

より強力なメディア・コンテンツ産業を目指すためには、コンテンツファクトリーとしての制作基盤を強化することが重要です。そのための「臨海副都心スタジオ」（仮称）の建築が順調に進んでいます。平成19年3月末竣工予定のこのスタジオの完成によって自社スタジオの数は倍増し、コンテンツ制作・供給力が飛躍的に高まることとなります。映像コンテンツの制作力をさらに強固なものにするグループ発展のための重要な設備として位置付けています。

デジタル・コンテンツ分野でのビジネスも積極的に展開していきます。インターネット関連事業では、圧倒的なアクセス数を誇るフジテレビホームページをさらに充実させ、ビジネス活用にも力を注ぎます。ブロードバンドメディア戦略の一環として、今年の7月からインターネットによる動画配信サービス「フジテレビ On Demand」を開始しました。通信でのフジテレビ映像コンテンツの配信サービスについてはマーケットの動向を注意深く観察しながら引き続き

周到な準備を進めていきます。携帯電話向けサービスでは、番組と連動したコンテンツ配信や携帯ショッピングの「FUJITV WEB SHOP」などを核にさらにコンテンツの充実をはかり売上増大をはかります。

映画事業におきましては、一段と映画製作力を強化しマーケットシェアの拡大を狙います。その中で、高度な制作・編集技術が必要となるアニメ製作の最先端デジタル編集スタジオを平成18年1月に設立します。ルーカスフィルム社のスカイウォーカーサウンドと専用回線を結ぶなど質の高いアニメ映画と実写作品制作環境を整え、日本初のフルCG対応ポストプロダクション事業を展開します。

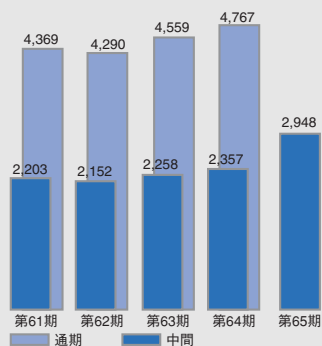
またベンチャー企業の発掘・育成を目的とする200億円規模のベンチャーキャピタルファンドを今年3月に(株)ニッポン放送とSBIとの共同出資により設立しましたが、既に有望未公開企業4社への投資が決定しています。EC（電子商取引）関連企業や米国の映画製作・配給会社等への投資です。今後も引き続きメディア・コンテンツ関連で将来性のある企業への投資

を行っていきます。今年4月に(株)ライブドアとの間で資本提携および事業提携に合意し、当社は同社の第三者割当増資を引き受けるとともに、両社で放送・通信の提携可能な分野における個別の業務提携に向けて、具体的な協議を数多く行ってまいりました。(株)ライブドアの電子マネーの導入、インターネット関連の要素的な技術の利用、制作現場における無線LAN活用の検討、ミュージカルの共同主催などの成果ができており、継続案件も含め様々な分野で取り組みを行います。

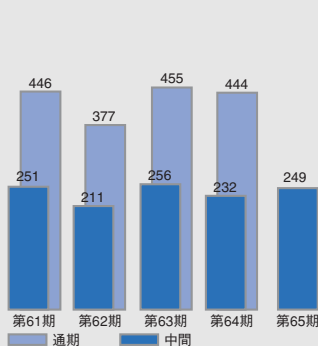
社員一人一人がいつも「次の一手」を考えており、「次の一手」は尽きることがありません。「次の一手」から新しい「次の一手」もどんどん生まれてきます。この創造力、そしてそのアイデアを具現化する実行力こそがフジテレビの、またグループ全体の強さの源泉です。足元をみつめ、未来に向かいながら「次の一手」をうつこと。それがグループを持続的に成長させるものであると確信しております。

## 連結財務ハイライト

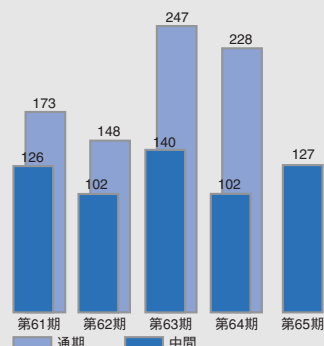
売上高（億円）



経常利益（億円）



当期純利益（億円）



平成17年度上期(4月～9月)のフジテレビは視聴者の皆様のおかげで支持をいただき、ゴールデン(19時～22時)、プライム(19時～23時)、全日(6時～24時)、ノンプライム(6時～19時・23時～24時)の4つの時間帯で、いずれもトップの視聴率を獲得し、「四冠王」となりました。前年度上期がノンプライムを除く「三冠王」でしたので、それを大きく上回る好結果です。

## drama ドラマ

電車男

連続ドラマでは、4月期に放送された木村拓哉主演「エンジン」が平均視聴率22.5%、巨大IT企業を舞台に話題を呼んだ「恋におちたら」も16.3%の平均視聴率を獲得し、春のドラマの話題を独占しました。また7月期では「電車男」が社会現象になるほどのブームを巻き起こし、平均視聴率も21.2%と他局を含め、この夏最高の実績を残しました。また、単発ドラマでは、夏の定番人気ドラマ「ウォーターボーイズ」やディズニーとの世界初のコラボレーション企画「星に願いを」、二夜連続大型企画「積木くずし真相」など話題作を連発、『ドラマはフジテレビ』というイメージをさらに確固たるものにしました。



## variety バラエティ

ネプリーグ

上期のバラエティは好調で、フジテレビの勢いを支えたと言っても過言ではないでしょう。特にこの4月からスタートした「ネプリーグ」は一週間のゴールデンタイムのトップバッターとして大成功を収めました。また「SMAP×SMAP」「トリビアの泉」「とんねるずのみなさんのおかげでした」「幸せって何だっけ」「脳内エステIQサプリ」「めっちゃイケてるッ!」などが依然高視聴率を獲得する一方、「奇跡体験!アンビリバボー」が内容面・キャスティング面での努力で大幅に視聴率を上げるなど、超人気番組のフルラインナップはますます磐石です。



## life information 情報

とくダネ!

世情を日々多角的視点から検証し、的確な論点で伝える、朝の情報番組「とくダネ!」は引き続き好調で、月間の平均視聴率は、お茶の間の強い支持を受け、56カ月連続1位となっています。“日本の朝の顔”として評価の高い「めざましテレビ」は、若者のトレンドの牽引役であり、学校や職場で話題的となっています。また、首都圏でも月間平均視聴率で日本テレビを抜き、全国的に『朝はフジテレビ』であることを印象付けました。「ワッツ!?ニッポン」「情報ライブEZ!TV」の週末番組は、新聞では見られない独自の企画を適宜盛り込み、視聴者の知的好奇心に応えました。「ザ・ノンフィクション」は、忍耐強い地道な調査、取材の結果、濃密で高質な作品を放送しています。



## news 報道

FNNスーパーニュース

メインの「FNNスーパーニュース」は視聴率4年連続年間1位の獲得に向けてますます好調で、とくに5月から9月には、89日間連続視聴率トップという新記録を達成しました。多発した地震・台風報道などでも視聴率民放トップを堅持、『発生に強いフジテレビ』をさらに印象付けました。報道番組分野では、日航機墜落事故から20年目の8月12日に、ドキュメンタリードラマ「日航機墜落～20年目の誓い～」を放送、視聴者から多くの感動の声が寄せられました。また、メディアを取り巻く環境が激変する中、「憲法21条・表現の自由」をテーマに、ドキュメンタリー番組を制作、報道のあり方に一石を投じて各方面から大きな反響を呼びました。



## sport スポーツ

世界柔道2005

9月にカイロで開催された「世界柔道2005」は、深夜の放送ながら最高視聴率19.3%をあげ、新たなターゲットである若い視聴者層の取り込みに成功、またフジテレビの制作した競技映像は国際的に高い評価を得ました。「女子バレーボールワールドグランプリ2005」は、初めて決勝ラウンドを日本に招致、平均18.4%の高視聴率をあげました。6月にはワールドカップサッカーの前哨戦、「FIFAコンフェデレーションズカップ2005」をドイツから生放送、『国際的なスポーツ中継もフジテレビ』を印象付けました。一方レギュラー番組も好調で、日曜夜8時の「ジャンクSPORTS」は平均視聴率15%をマークし、新しいジャンルのスポーツ番組として定着しています。



## event イベント

機関車トーマスミュージカル

2004年秋から始まった「アレグリア2」は、東京公演を皮切りに地方公演を経て90万人以上を動員し、再び東京で上演します。舞台ではジェームス・ディーン没後50周年記念企画として「エデンの東」「理由なき反抗」また、米トニー賞部門賞を受賞した「ボーイ・フロム・オズ」「プロデューサーズ」の公演はいずれも好評を博しました。夏の「お台場冒険王2005」では「機関車トーマスミュージカル」「ドイツ・ランド」等のサテライトイベントを開催し、過去最高となる464万人超の来場者となりました。スポーツイベントは「K-1」「PRIDE」、音楽・芸術面では五嶋龍によるチャリティーコンサートやバレエ「メダリストたちの競演」等、幅広いイベント展開を行いました。



タイトル：ミュージカル「きかんしゃトーマスとなかまたち」  
クレジット：(C) 2006 Gullane (Thomas) Limited

## movie 映画

交渉人 真下正義

踊る大捜査線スピンオフ企画第1弾となる「交渉人 真下正義」(5/7公開)は興行収入41億円を記録して今年度ナンバー1ヒット(9月末現在)に輝きました。また、「電車男」(6/4公開)は7月からの連続ドラマ放送に先立って公開され、興行収入37億円の大ヒットを記録しました。さらに夏休みにフジテレビが久々に送る国民映画「星になった少年」(7/16公開)は興行収入22億円を記録し、ファミリーで楽しめる作品として大きな支持を得ました。そして踊る大捜査線スピンオフ企画第2弾「容疑者 室井慎次」は興行収入33億円を突破(9月末現在)して大ヒット上映中です。



## rights business ライツビジネス

ハチミツとクローバー

ビデオ事業ではアニメ分野で「ドラゴンボールGT」のDVDボックスが5万8,000セット以上売り上げたほか、深夜アニメ「ハチミツとクローバー」も大健闘しています。ドラマ分野では「ラストクリスマス」と「救命病棟24時」第3シリーズのDVDボックスが好調でした。バラエティでは「リチャードホール」が計3巻で9万枚近く売り上げています。また、番組関連商品もこの夏の「お台場冒険王2005」で史上最高金額の売り上げを記録。「はねるのトびら」「ワンナイ」「サザエさん」「IQサプリ」「ワンピース」「笑っていいとも」「バボちゃん」「めざましテレビ」が牽引役となりました。系列局のショップも順調に推移しています。



## new studio 「臨海副都心スタジオ」(仮称) 建設計画の概要

当社はかねてより中長期の経営方針として“メディア・コンプレックス”体制の推進と、“デジタル・コンテンツ・ファクトリー”の充実を掲げてまいりました。新スタジオはこうした要請にこたえるべく当社の開局50周年記念事業の一環として計画されました。新スタジオの完成により、最新最強のコンテンツ供給体制を構築できるようになるとともに、これらの良質なコンテンツを地上デジタル放送、モバイルコンテンツ事業や多様化するメディアに適切に投下することによって、さらに収益性の高い事業構造が実現できるものと考えています。



新スタジオは、最先端のデジタル技術を駆使した8つのスタジオと、ノンリニア編集などを取り入れたポストプロを完備し、企画から番組収録、仕上げまでを一貫して行うことで制作効率を高めます。また、かねてから研究開発を進めてきた、IT技術をテレビメディアに取り込んだ企画を実現させ、新スタジオ自体が最新のメディアとなっており、様々な情報を発信していきます。

また、新スタジオを本社ビルに続く第2のランドマークと位置付け、見学施設の充実をはかっているほか、省エネルギー対策として外装を二重ガラス構造にするなど、積極的に地球環境への配慮にも取り組んでいます。

建築費の概算総額は土地代や放送設備を含め580億円の計画で、平成16年1月の公募増資で得た資金を充当します。竣工は平成19年3月末を予定しています。

件名	臨海副都心スタジオ (仮称)
所在地	東京都江東区青海二丁目36番
設計監修	鹿島建設 (株)
施工会社	鹿島建設 (株)
見積査定	(株)三菱地所設計・(株)日建設計
敷地面積	19,373㎡ (5,860坪)
建築面積	15,121㎡ (4,574坪)
延床面積	71,117㎡ (21,513坪)
建築概要	用途 テレビスタジオ・事務所・店舗・駐車場 構造 S造・SRC造・RC造 階数 地上7階、地下1階(駐車場台数215台) 8スタジオ (バラエティ、ドラマ収録用など) サーバー収録ノンリニア編集を中心に構築 出演者個室、リハーサル室、メイク室等 大道具倉庫、小道具倉庫、衣装倉庫等 レストラン・コンビニエンス フジテレビグッズショップ、番組関連の展示施設
スタジオ数	
編集エリア	
出演者エリア	
美術エリア	
食堂エリア	
一般見学エリア	

## CS CS放送

CS放送フジテレビ721+739は、「2005F1GP」で、4月から土曜午前のフリー走行も加え、土日オールセッションを完全生中継。また、今季から「ヤクルト球団主催全試合」を試合前後まで含め6時間生中継と、より充実したプログラムでファンの心をとらえました。さらに、7月2日、世界9カ国10都市で同時生中継された史上最大の音楽イベント「LIVE8」を10時間以上にわたり生中継し大きな反響を呼びました。そして今夏、ブロードバンドによるオンデマンド動画配信の有料サービス「フジテレビ On Demand」を開始しました。



© 金子博

## internet インターネット関連

ホームページの4月の定期リニューアルでは、コンテンツのRSS配信を開始。専用アプリ「ラフ・ティッカー」もリリース、サイトの先進性が話題になりました。書籍情報ページ「ぶっくん」や番組の突撃レポート「ラフが行く！」など独自コンテンツも連載を始めています。8千万人が携帯を利用する時代となり「FNS25時間テレビ」をはじめ番組を見ながら携帯で参加できる連動企画を常時展開。「お台場冒険王2005」では来場者が混雑状況を確認できるサービスも実施。9月には携帯サイトTV部門27カ月連続トップを達成しました。



平均視聴率  
20%超の  
大人気ドラマ

# 電車男



## スタッフのオタクパワー炸裂!? 成功の秘密を探る!

いまや社会現象ともなった「電車男」。昨年春にインターネットの掲示板で誕生したこの物語は、アキバ系と呼ばれるオタク青年（電車男）が、電車内で酔っ払いにからまれていた美女（エルメス）を助けたことから知り合い、ネットの匿名掲示板を通じて、様々なアドバイスを受けながら、恋を成就させていくという純愛物語です。

昨年秋に発売された書籍（原作本）は、現在100万部を突破し、フジテレビ出資の映画も200万人を動員いたしました。そして、ブームの代表格ともなったフジテレビ・連続ドラマは、平均視聴率21.2%（特に個人視聴

率ではスポンサーニーズの高いTEEN・F1を見事に獲得）と、まさに2005年夏を飾る一大ムーブメントとなりました。

フジテレビがこのヒットを生み出した最大の要因は、ブームの兆しをいち早く察し、連続ドラマと映画の連動という形で企画を提案することによって、他を圧倒し原作サイドとより良い関係を築けたことによると思われる。また、ドラマの制作にあたり、インターネットの表現方法の工夫やオタク文化の徹底的な取材、さらに原作にはないキャラクターの開発など、スタッフがが丸となってアイデアを出し合い、原作以上の展開ができたこ

ともその一因であると思います。これもひとえに、フジテレビの時代の一步先を読む力、機動力、そしてドラマ制作能力が良い形で結び付いた結果だと自負しています。

さらに、ドラマ本体だけではなく、有機的な展開を見せた広報戦略や、制作部門以外でのコンテンツ展開にも成果を上げることができ、フジテレビの総合力の強さを、今一度、広く認識させることができたと思います。今後も当社は、時代の一步先を読み、時代を創るようなコンテンツを、一つでも多く制作してまいりたいと思っております。

### アニメ

ドラマのオープニングでアニメと連動することにより、二次的な展開でも成果を上げることができました。

オープニングアニメのDVDを特典としたサントラCDが、通常の2倍のセールスを記録。

また、通常のドラマグッズの他に、オープニングアニメ単体のキャラクターグッズを発売。フジテレビとアニメ制作会社で著作権を保持することにより、今後の展開も含め、権利収入が期待できます。



### ホームページ

ホームページでの細やかな展開により、全体のアクセス数を引き上げました。

（通常のドラマの2倍、延べ1億5千万のヒット数を記録）



# 電車男

平均視聴率20%超の  
大人気ドラマ

### DVD

DVD（12月発売）についても、購買力の高い層に支持されていることもあり、かなりの売り上げが期待できます。

### グッズ展開

ドラマで使用した小道具などを有効活用し、グッズ展開でも売り上げに貢献しました。（アクセサリ・ストラップなど各商品を完売し、通常のドラマグッズの数倍の売り上げを記録）



# 連結財務諸表<中間>

## 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間連結 会計期間末	前中間連結 会計期間末	前連結 会計年度
	平成17年9月30日現在	平成16年9月30日現在	平成17年3月31日現在
<b>資産の部</b>			
<b>流動資産</b>	<b>238,553</b>	<b>304,702</b>	<b>318,810</b>
現金及び預金	47,321	40,272	38,855
受取手形及び売掛金	116,088	100,986	98,127
有価証券	19,963	91,614	135,881
たな卸資産	23,511	23,924	22,557
繰延税金資産	6,117	5,876	6,256
その他流動資産	25,977	42,260	17,311
貸倒引当金	△ 426	△ 233	△ 179
<b>固定資産</b>	<b>454,003</b>	<b>335,533</b>	<b>362,380</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>144,815</b>	<b>127,618</b>	<b>127,626</b>
建物及び構築物	92,234	91,838	89,484
機械装置及び運搬具	13,295	11,044	13,302
土地	26,943	20,558	20,340
建設仮勘定	1,453	945	1,287
その他有形固定資産	10,888	3,233	3,211
<b>無形固定資産</b>	<b>44,625</b>	<b>34,280</b>	<b>43,598</b>
借地権	15,356	14,393	14,393
ソフトウェア	14,361	10,700	12,839
その他無形固定資産	14,907	9,185	16,365
<b>投資その他の資産</b>	<b>264,562</b>	<b>173,634</b>	<b>191,155</b>
投資有価証券	245,582	161,962	176,097
長期貸付金	1,367	62	102
繰延税金資産	3,790	3,061	3,614
その他投資	19,234	12,879	15,317
貸倒引当金	△ 5,412	△ 4,330	△ 3,975
<b>資産合計</b>	<b>692,556</b>	<b>640,236</b>	<b>681,190</b>

科目	当中間連結 会計期間末	前中間連結 会計期間末	前連結 会計年度
	平成17年9月30日現在	平成16年9月30日現在	平成17年3月31日現在
<b>負債の部</b>			
<b>流動負債</b>	<b>162,992</b>	<b>96,302</b>	<b>98,152</b>
支払手形及び買掛金	54,778	44,464	45,540
短期借入金	36,307	1,910	2,015
未払法人税等	10,061	11,673	14,668
返品調整引当金	933	119	138
契約解除損失引当金	—	1,129	16
その他流動負債	60,911	37,004	35,772
<b>固定負債</b>	<b>66,817</b>	<b>30,196</b>	<b>93,864</b>
新株予約権付社債	342	336	63,223
長期借入金	1,900	—	293
繰延税金負債	23,628	2,756	3,219
退職給付引当金	30,991	24,208	23,863
役員退職慰労引当金	3,073	2,257	2,880
その他固定負債	6,880	638	383
<b>負債合計</b>	<b>229,809</b>	<b>126,498</b>	<b>192,017</b>
<b>少数株主持分</b>			
少数株主持分	8,343	8,130	10,084
<b>資本の部</b>			
<b>資本金</b>	<b>146,200</b>	<b>106,200</b>	<b>114,750</b>
<b>資本剰余金</b>	<b>173,664</b>	<b>133,664</b>	<b>142,214</b>
<b>利益剰余金</b>	<b>275,711</b>	<b>261,056</b>	<b>272,090</b>
土地再評価差額金	2,096	2,106	2,103
その他有価証券評価差額金	37,268	19,614	18,545
為替換算調整勘定	△ 585	△ 897	△ 1,236
自己株式	△ 179,953	△ 16,139	△ 69,380
<b>資本合計</b>	<b>454,403</b>	<b>505,606</b>	<b>479,088</b>
<b>負債、少数株主持分 及び資本合計</b>	<b>692,556</b>	<b>640,236</b>	<b>681,190</b>

## 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間連結 会計期間	前中間連結 会計期間	前連結 会計年度
	平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで	平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで
(経常損益の部)			
営業損益の部			
営業収益	294,818	235,764	476,733
売上高	294,818	235,764	476,733
営業費用	270,174	213,594	433,152
売上原価	191,300	149,088	301,561
販売費及び一般管理費	78,874	64,506	131,591
営業利益	24,644	22,170	43,581
営業外損益の部			
営業外収益	3,376	2,360	3,036
受取利息及び配当金	1,033	791	1,075
持分法による投資利益	811	846	657
その他営業外収益	1,531	722	1,303
営業外費用	3,072	1,236	2,138
支払利息	204	63	123
投資事業組合投資損失	633	376	594
新株発行費	487	94	94
社債発行費	—	—	68
その他営業外費用	1,745	701	1,258
経常利益	24,948	23,293	44,478
(特別損益の部)			
特別利益	582	24	88
固定資産売却益	0	0	8
投資有価証券売却益	411	—	69
貸倒引当金戻入益	52	—	—
役員退職慰労引当金戻入益	97	—	—
その他特別利益	20	24	10
特別損失	924	4,659	4,837
固定資産売却損	128	3	281
固定資産除却損	151	71	434
投資有価証券売却損	—	0	46
投資有価証券評価損	377	281	286
会員権等評価損	7	4	45
会員権預託金貸倒引当金繰入額	46	441	281
貸倒引当金繰入額	145	2,713	2,503
契約解除損失引当金繰入額	—	1,129	16
契約解除損失	—	—	631
その他特別損失	67	13	308
税金等調整前中間(当期)純利益	24,606	18,658	39,730
法人税、住民税及び事業税	9,208	11,046	19,475
法人税等調整額	1,797	△ 914	△ 1,456
少数株主利益又は少数株主損失(△)	850	△ 1,709	△ 1,134
中間(当期)純利益	12,749	10,234	22,845

## 注記

## 1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子法人等の数：30社 (株共同テレビジョン、(株)ディノス、(株)フジクリエイティブコーポレーション 等

(株)LFホールディングス (旧商号：(株)ライブドア・パートナーズ) の株式取得により、(株)ニッポン放送が持分法適用の関連会社から連結子法人等となりました。(株)LFホールディングスは平成17年7月に当社と合併し消滅しました。

(株)ニッポン放送の子会社化に伴い、(株)ポニーキャニオンおよび(株)フジサンケイアドワークが持分法適用の関連会社から連結子法人等に、(株)ニッポン放送プロジェクトおよび(株)ビッグショットが新たに連結子法人等となりました。

(株)ポニーキャニオンの子会社化に伴い、(株)ポニーキャニオンエンタープライズが新たに連結子法人等となりました。

なお、連結子法人等であった(株)フジテレビフューチャネットは連結子法人等である(株)フジミックと合併しました。

(2) (株)エフシーゼー総合研究所、(株)ティーコムコーポレーション、(株)フジテレビ出版、(株)フジサンケイエージェンシー等の非連結子法人等28社は、いずれも小規模会社であり、合計の総資産・売上高・中間純損益および利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも中間連結財務諸表に重要な影響を及ぼさないため、連結の範囲から除外しております。

(3) 当社および子法人等の出資持分割合が100分の50を超える投資事業有限責任組合等のうち、実質的に支配していないと認められるため、子法人等として取り扱っていないものが2つあります。

## 2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子法人等の数：4社 (株)エフシーゼー総合研究所、(株)ティーコムコーポレーション、(株)フジテレビ出版、(株)フジサンケイエージェンシー

(株)ニッポン放送の子会社化に伴い、(株)フジサンケイエージェンシーが持分法適用の関連会社から持分法適用の子法人等となりました。

(2) 持分法適用の関連会社の数：8社 (株)サンケイビル、(株)産業経済新聞社、(株)ビーエスフジ 等(株)LFホールディングス (旧商号：(株)ライブドア・パートナーズ) の株式取得により、(株)ニッポン放送が持分法適用の関連会社から連結子法人等となりました。

(株)ニッポン放送の子会社化に伴い、(株)ポニーキャニオンおよび(株)フジサンケイアドワークが持分法適用の関連会社から連結子法人等に、(株)フジサンケイエージェンシーが持分法適用の関連会社から持分法適用の非連結子法人等となりました。

(株)ポニーキャニオンの子会社化に伴い、(株)メモリーテックが新たに持分法適用の関連会社となりました。

(3) セントラルインベックス(株)、(株)八幡企画、(株)アジャンス・デ・ミュゼ・フランセ等の子法人等および関連会社は、それぞれ中間純損益および利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法適用の範囲から除外しております。

## 3. 会計処理の変更

当中間連結会計期間から「固定資産の減損に係る会計基準」(「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会 平成14年8月9日))及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成15年10月31日 企業会計基準適用指針第6号)を適用しております。これによる損益に与える影響は軽微であります。

## (中間連結貸借対照表関係)

- 有形固定資産の減価償却累計額…102,626百万円
- 保証債務…4,276百万円

## (中間連結損益計算書関係)

1株当たり中間純利益…6,318円37銭

# 単独財務諸表<中間>

## 中間貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期	前中間期	前 期
	平成17年9月30日現在	平成16年9月30日現在	平成17年3月31日現在
<b>資産の部</b>			
<b>流動資産</b>	<b>163,073</b>	<b>246,533</b>	<b>263,480</b>
現金及び預金	4,967	3,920	8,975
受取手形	36,870	36,970	34,912
売掛金	50,479	53,154	51,212
有価証券	16,559	89,068	131,541
番組勘定及びその他の製作品	15,751	18,504	17,426
貯蔵品	52	50	54
前渡金	4,942	4,546	5,793
前払費用	1,641	1,458	1,160
繰延税金資産	4,419	4,655	4,636
信託受益権	—	33,520	6,675
その他流動資産	27,500	852	1,255
貸倒引当金	△ 111	△ 169	△ 162
<b>固定資産</b>	<b>563,263</b>	<b>327,861</b>	<b>400,787</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>122,217</b>	<b>124,780</b>	<b>124,665</b>
建物	85,307	89,816	87,391
構築物	1,030	1,095	1,077
機械及び装置	11,419	9,389	11,627
航空機	15	3	3
車両運搬具	138	122	145
工具器具備品	2,812	2,896	2,825
土地	20,011	20,481	20,239
建設仮勘定	1,481	974	1,356
<b>無形固定資産</b>	<b>30,543</b>	<b>25,282</b>	<b>27,701</b>
借地権	14,393	14,393	14,393
ソフトウェア	13,783	10,487	12,919
その他無形固定資産	2,366	401	387
<b>投資その他の資産</b>	<b>410,503</b>	<b>177,799</b>	<b>248,420</b>
投資有価証券	218,154	145,955	216,640
子会社株式	182,303	21,465	21,466
その他の関係会社有価証券	5,864	—	6,001
長期前払費用	347	417	350
その他投資	4,730	11,328	5,178
貸倒引当金	△ 897	△ 1,368	△ 1,217
<b>資産合計</b>	<b>726,337</b>	<b>574,394</b>	<b>664,267</b>

科目	当中間期	前中間期	前 期
	平成17年9月30日現在	平成16年9月30日現在	平成17年3月31日現在
<b>負債の部</b>			
<b>流動負債</b>	<b>122,832</b>	<b>69,322</b>	<b>72,452</b>
支払手形	9,211	8,069	8,678
買掛金	21,583	24,262	22,110
短期借入金	30,000	—	—
未払金	34,260	9,243	11,179
未払費用	9,753	8,977	7,310
未払法人税等	8,474	10,493	13,094
未払消費税等	889	413	357
前受金	1,417	1,695	849
預り金	3,029	1,853	3,474
従業員預り金	3,140	3,135	3,478
返品調整引当金	47	42	42
その他流動負債	1,023	1,135	1,876
<b>固定負債</b>	<b>34,036</b>	<b>21,829</b>	<b>83,761</b>
新株予約権付社債	—	—	62,900
繰延税金負債	13,568	878	703
退職給付引当金	18,887	18,750	18,119
役員退職慰労引当金	1,090	1,448	1,549
その他固定負債	489	751	489
<b>負債合計</b>	<b>156,869</b>	<b>91,152</b>	<b>156,213</b>
<b>資本の部</b>			
<b>資本金</b>	<b>146,200</b>	<b>106,200</b>	<b>114,750</b>
<b>資本剰余金</b>	<b>173,664</b>	<b>133,664</b>	<b>142,214</b>
資本準備金	173,664	133,664	142,214
<b>利益剰余金</b>	<b>247,240</b>	<b>240,913</b>	<b>249,572</b>
利益準備金	4,385	4,385	4,385
任意積立金	228,300	221,300	221,300
別途積立金	228,300	221,300	221,300
中間(当期)未処分利益	14,555	15,228	23,887
<b>株式等評価差額金</b>	<b>36,647</b>	<b>18,600</b>	<b>17,653</b>
<b>自己株式</b>	<b>△ 34,284</b>	<b>△ 16,137</b>	<b>△ 16,137</b>
<b>資本合計</b>	<b>569,468</b>	<b>483,242</b>	<b>508,053</b>
<b>負債・資本合計</b>	<b>726,337</b>	<b>574,394</b>	<b>664,267</b>

## 中間損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期	前中間期	前 期
	平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで	平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで
<b>(経常損益の部)</b>			
<b>営業損益の部</b>			
営業収益	192,619	190,456	376,039
売上高	192,619	190,456	376,039
営業費用	173,222	169,911	337,253
売上原価	124,592	122,922	242,208
販売費及び一般管理費	48,629	46,988	95,044
営業利益	19,397	20,545	38,785
<b>営業外損益の部</b>			
営業外収益	2,570	1,962	2,800
受取利息及び配当金	1,917	1,260	1,524
雑収入	652	701	1,275
営業外費用	1,846	585	1,415
支払利息	67	49	98
新株発行費	487	30	30
社債発行費	—	—	68
公開買付費用	—	—	188
雑損失	1,291	505	1,030
経常利益	20,120	21,922	40,170
<b>(特別損益の部)</b>			
特別利益	414	—	116
固定資産売却益	—	—	0
投資有価証券売却益	363	—	116
貸倒引当金戻入益	51	—	—
特別損失	3,729	1,695	2,403
固定資産売却損	126	3	269
固定資産除却損	127	63	390
投資有価証券評価損	3,422	1,211	1,474
会員権等売却損	0	2	4
会員権等評価損	7	4	4
会員権預託金貸倒引当金繰入額	46	411	260
税引前中間(当期)純利益	16,805	20,226	37,882
法人税、住民税及び事業税	7,720	10,120	17,131
法人税等調整額	51	△ 1,711	△ 1,218
中間(当期)純利益	9,033	11,818	21,970
前期繰越利益	5,522	3,410	3,410
中間配当額	—	—	1,493
中間(当期)未処分利益	14,555	15,228	23,887

## 注記

(会計処理の変更)

当中間期から「固定資産の減損に係る会計基準」(「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会 平成14年8月9日))及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成15年10月31日 企業会計基準適用指針第6号)を適用しております。これによる損益に与える影響はありません。

(中間貸借対照表関係)

- 子会社に対する金銭債権及び債務
 

短期金銭債権	3,600百万円
長期金銭債権	52百万円
短期金銭債務	12,508百万円
- 有形固定資産の減価償却累計額 76,230百万円
- 偶発債務
 

保証債務	4,276百万円
------	----------
- 重要なリース資産  
中間貸借対照表に計上した固定資産のほか、テレビジョン放送設備及び電子計算機をリース契約により使用しております。
- 当中間期までに取得した有形固定資産のうち在庫補助金等による圧縮記帳額は、構築物118百万円、機械及び装置57百万円であり、中間貸借対照表計上額は、この圧縮記帳額を控除しております。

(中間損益計算書関係)

- 子会社との間の取引
 

営業収益	10,901百万円
営業費用	22,888百万円
営業取引以外の取引	3,159百万円
- 一般管理費に含まれる研究開発費 174百万円
- 1株当たり中間純利益 3,466円80銭

## ■フジテレビグループ会社

主要な会社	事業内容
<b>放送事業 (テレビ放送事業、ラジオ放送事業)</b>	
当社	テレビ放送
(株)ニッポン放送	ラジオ放送
<b>放送関連事業 (放送番組の企画制作・技術・中継等)</b>	
(株)共同エディット	VTR編集等の請負
(株)共同テレビジョン	テレビ番組、CM、PR映像等の制作
(株)バスク	テレビドラマ・映画等の制作技術請負
(株)八峯テレビ	番組制作技術
(株)バンエイト	放送番組等の企画制作
(株)フジアール	放送番組、イベント催事の美術企画制作
(株)フジクリエイティブコーポレーション	放送番組販売、番組制作等
(株)フジライティング・アンド・テクノロジー	放送舞台等の照明技術
(株)ベイス	番組制作協力、番組およびビデオ制作
FUJI INTERNATIONAL PRODUCTIONS(UK)LTD.	放送番組等の企画制作
FUJISANKEI COMMUNICATIONS INTERNATIONAL, INC.	放送番組等の企画制作、フジサンケイグループの海外業務受託
<b>通信販売事業 (通信販売、生花販売)</b>	
(株)ディノス	通信販売業
(株)フジテレビフラワーセンター	生花通信販売
<b>映像音楽事業 (オーディオ、ビデオソフト等の製造販売、音楽著作権管理等)</b>	
(株)シンコーミュージック・パブリッシャーズ	音楽著作権の取得、その使用許諾
(株)フジパシフィック音楽出版	楽譜の出版、内外国楽譜・著作権の管理、原盤の企画・制作
任意組合フジ・ミュージックパートナーズ	音楽著作権の取得、その使用許諾
(株)ポニーキャニオン	オーディオ・ビデオソフトの制作販売
(株)ポニーキャニオンエンタープライズ	録画録音用テープ・ディスクの製造販売
FUJIPACIFIC MUSIC(USA), INC.	音楽著作権の取得、その使用許諾
FUJISANKEI CALIFORNIA ENTERTAINMENT, INC.	音楽出版事業への投資等
T/Q MUSIC, INC.	楽譜の出版、楽譜・著作権の管理、新たな楽譜・著作権の取得
WINDSWEPT CLASSICS, INC.	音楽出版事業への投資等
<b>その他事業 (人材派遣、動産リース、ソフトウェア開発、出版等)</b>	
(株)ニッポン放送プロジェクト	リース業
(株)ビッグショット	広告代理業、イベント制作
(株)フジカルチャープランニング	美術品販売、リース業
(株)フジサンケイアドワーク	広告代理業
(株)フジサンケイ人材センター	人材派遣業、有料職業紹介事業
(株)フジミック	情報サービス業
(株)扶桑社	雑誌・書籍の出版

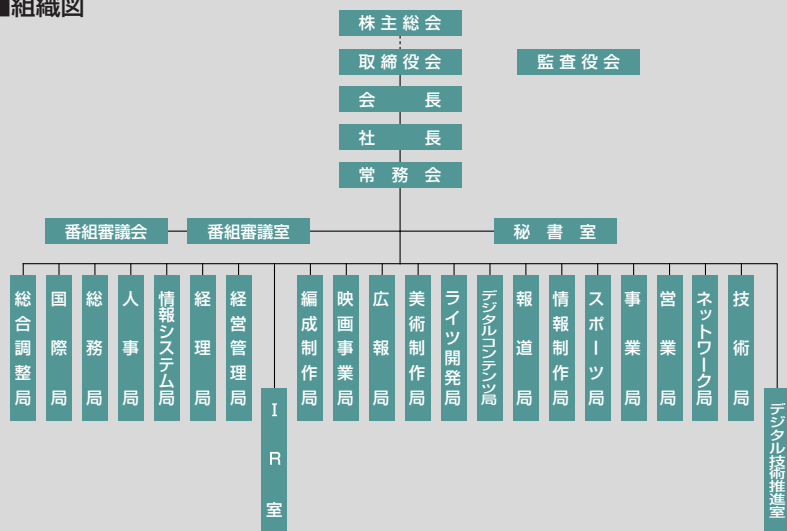
## ■フジネットワーク28局

UHB	北海道文化放送(株)
MIT	(株)岩手めんこいテレビ (株)仙台放送
AKT	秋田テレビ(株)
SAY	(株)さくらんぼテレビジョン
FTV	福島テレビ(株) (株)フジテレビジョン
NST	(株)新潟総合テレビ
NBS	(株)長野放送
SUT	(株)テレビ静岡
BBT	富山テレビ放送(株)
ITC	石川テレビ放送(株)
FTB	福井テレビジョン放送(株)
THK	東海テレビ放送(株)
KTV	関西テレビ放送(株)
TSK	山陰中央テレビジョン放送(株)
OHK	岡山放送(株)
TSS	(株)テレビ新広島
EBC	(株)テレビ愛媛
KSS	高知さんさんテレビ(株)
TNC	(株)テレビ西日本
STS	(株)サガテレビ
KTN	(株)テレビ長崎
TKU	(株)テレビ熊本
TOS	(株)テレビ大分
UMK	(株)テレビ宮崎
KTS	鹿児島テレビ放送(株)
OTV	沖縄テレビ放送(株)

## ■会社概要

商号	株式会社フジテレビジョン Fuji Television Network, Inc.
設立	昭和32年11月18日
放送開始	昭和34年3月1日
決算期	3月31日
資本金	1,462億35万円
従業員数	1,386名
事業所	
本社	〒137-8088 東京都港区台場二丁目4番8号 03-5500-8888 (大代表)
スタジオ	
送信所	〒105-0011 東京都港区芝公園四丁目2番8号 東京タワー内
関西支社	〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目4番4号 アクア堂島東館 (EAST17階)
名古屋支社	〒461-0005 名古屋市東区東桜一丁目14番25号 テレビア13階
横浜支局	〒231-0005 横浜市中区本町二丁目22番地 日本生命横浜本町ビル
前橋支局	〒371-0026 前橋市大手町二丁目6番17号 住友生命前橋ビル8階
海外支局・事務所	ニューヨーク、ワシントン、ロサンゼルス、ロンドン、パリ、ベルリン、カイロ、モスクワ、北京、ソウル、バンコク、クアラルンプール、ローマ事務所
ホームページアドレス	<a href="http://www.fujitv.co.jp">http://www.fujitv.co.jp</a>

## ■組織図



## ■役員

代表取締役会長	日枝久
代表取締役社長	村上光一
専務取締役	横井亮介
専務取締役	糸山雄二
常務取締役	宮内正喜
常務取締役	豊田皓
常務取締役	山田良明
取締役	嘉納修治
取締役	太田英昭
取締役	小櫃真佐己
取締役	内堀眞澄
取締役	秋保豊親
取締役	松岡功
取締役	佐藤重喜
取締役	出馬迪男
取締役	別府隆文
取締役	清原武彦
常勤監査役	近藤俊一郎
常勤監査役	伊藤八朗
常勤監査役	尾上規喜
監査役	石川六郎
監査役	茂木友三郎

## ■株式の状況

会社が発行する株式の総数	9,000,000株
発行済株式の総数	2,938,002.84株
株主数	98,520名

(注) 株式数および株主数は自己株式、端株式を含んでおります。

## ■大株主

株主名	当社への出資状況		当社の株主への出資状況	
	持株数 (株)	比率 (%)	持株数 (株)	比率 (%)
株式会社ニッポン放送	573,704.00	19.53	26,424,159	100.00
東宝株式会社	183,221.00	6.24	2,126,500	1.13
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	121,338.00	4.13	—	—
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	100,414.00	3.42	—	—
株式会社文化放送	77,920.80	2.65	—	—
大和証券エスエムピーシー株式会社	75,320.00	2.56	—	—
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505025	59,675.00	2.03	—	—
関西テレビ放送株式会社	54,461.40	1.85	1,985	19.85
バンク オブ パーミューダ リミテッド ハミルトン	47,408.00	1.61	—	—
株式会社電通	46,500.00	1.58	8,000	0.29

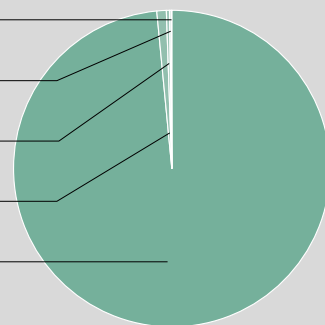
(注) 株式会社ニッポン放送所有の573,704株は、商法第241条の規定により議決権のない相互保有株式であります。

(注) 上記のほか当社所有の自己株式138,200.44株があります。

## ■所有者区分別株式分布状況

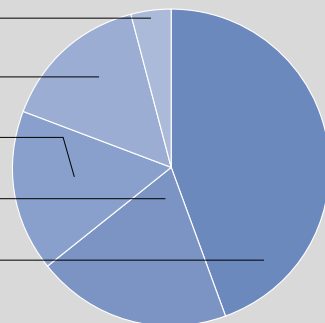
### 株主数

証券会社	59名 (0.06%)
金融機関	172名 (0.17%)
外国法人等	319名 (0.32%)
国内法人	951名 (0.97%)
個人	97,019名 (98.48%)



### 株式数

証券会社	120,483株 (4.10%)
外国法人等	445,079株 (15.15%)
金融機関	483,844株 (16.47%)
個人	583,624株 (19.86%)
国内法人	1,304,970株 (44.42%)



(注) 株式数は端株式を除いております。

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
利益配当金	決算期における株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主または登録質権者および端株原簿に記載または記録された端株主にお支払いいたします。
中間配当金	取締役会の決議により、中間配当を実施する場合は、毎年9月30日における株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主または登録質権者および端株原簿に記載または記録された端株主にお支払いいたします。
外国人等の株主名簿への記載の制限	放送法第52条の8第1項に関連して、当社の定款には次の規定があります。 定款第7条 本会社は、次の各号のいずれかに掲げる者からその氏名及び住所を株主名簿に記載又は記録することの請求を受けた場合において、その請求に応ずることにより、次の各号に掲げる者の有する議決権の総数が、本会社の議決権の5分の1以上を占めることとなるときは、その氏名及び住所を株主名簿に記載又は記録することを拒むものとする。 1. 日本の国籍を有しない人 2. 外国政府又はその代表者 3. 外国の法人又は団体
株式の名義書換	
名義書換代理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社本店証券代行部
(お問い合わせ先)	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社証券代行部
同取次所	電話 0120-288-324 (フリーダイヤル) みずほ信託銀行株式会社全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社本店および全国各支店
端株の買取	
取扱場所	上記名義書換代理人の事務取扱場所、同取次所
買取手数料	当社株式取扱規則に定める1株当たりの売買手数料額を買取った端株数で按分した額
公告掲載紙	産業経済新聞



株式会社 **フジテレビジョン**

この事業報告書は再生紙を使用しております